

# 卒業論文執筆要領

神奈川工科大学  
創造工学部  
ホームエレクトロニクス開発学科

学生氏名 杉村 博

指導教員 杉村 博

2014 年 6 月 5 日

## 目次

第 1 章	まえがき .....	1
第 2 章	学位論文の体裁と構成 .....	2
2.1	論文の体裁 .....	2
2.2	一般的な体裁に関する注意事項 .....	2
2.3	論文の構成 .....	2
2.3.1	本文 .....	3
2.4	参考文献 .....	3
第 3 章	おわりに .....	3

## 第1章 まえがき

卒業論文執筆にあたって、研究に対して真摯に取り組むことは当然重要であるが、その内容を明確に記述するという訓練がかなり重要な要素となっている。工学的で明瞭な文章を記述するという点において、その単語選択や理論展開についての重要性は明白であるが、論文の体裁を厳守するという基礎的な能力についても諸君は学ぶ必要がある。

本稿はその執筆上の注意を説明するとともに、本稿そのものが卒業論文の体裁を示すという役割を担っている。諸君はこの学位論文執筆要領をよく読み、観察し、自らの学位論文と比較することで論文体裁を整えてほしい。

## 第2章 学位論文の体裁と構成

### 2.1 論文の体裁

論文のような世の中の公的な資料は見栄えが定められている。これを体裁という。会社には会社の、役所には役所の、学会には学会の、そして学校には学校の様々な公的書類に関して体裁が定められており、これに従わない限り書類は受け付けられない。内容の前にまず体裁を整えることが重要である。

体裁は余白、文字サイズ、文字のフォント、見出しのポイントシステム、図表の張りかた、引用の仕方、参考文献の書き方など、ありとあらゆる見栄えに決まりがある。提出書類の全ての箇所が子の体裁に従っていない場合、その書類が審査前に破棄される可能性は高くなる。卒業論文はこのような体裁を守る技術について訓練する場でもある。

### 2.2 一般的な体裁に関する注意事項

学位論文は Microsoft Word か TeX システムを用いて作成を行い、印刷して提出する。モノクロ印刷でも通用するように図表や本文に気を付けて作成を行う。なお、画像解析等で色について言及する場合には例外とする。

紙は A4、余白は上部 35 mm、下部 30 mm、左部 30 mm、右部 25 mm 程度とする。本文は全角 40 文字の 40 行とする。日本語フォントは MS P 明朝、英語フォントは Times New Roman を用いる。英字や数字は全角の必要がない限り半角を用いる。

見出しは 2.2, 3.1.4 のようにポイントシステムを用いる。ただし章についてはページを改めて第 1 章のように記述する。

数式は「 $x = E_y \sum_{n=1}^{10} n$ 」のように文中数式と、行を改める

$$x = E_y \sum_{n=1}^{10} n \quad (1)$$

のような数式がある。行を改めた数式には必ず数式番号を付け、参照の便を図る。なお行を改めた数式についても文章構造としては文中数式と同等である。このためこの上の行を見てもわかる通り、段落を変えた指標である字下げを行っていない。

図表は必ず見出しを付ける。ホームエレクトロニクス開発学科の学位論文のルールとして、図表内の文字と見出しは英語とする。図の見出しは図の下に、表の見出しは表の上に記述し、図は Fig. 1、表は Table 1 のように番号をつける。

### 2.3 論文の構成

通常は扉、論文要旨、目次、本文、参考文献、付録で構成される。扉とはタイトルページの事である。論文要旨では1ページ1000文字程度で論文全体を説明する。目次は章、節、項のページ番号が分かるように記述する。ページ番号の不一致が起こらないように提出前には必ず更新すると

よい。本文の説明は下記項に記す。参考文献は本論文で引用した文献について示す。付録は必要に応じて作成する。プログラムコードや大きな図表を入れる場合があるが、通常は付与しない。また論文のページ数は本文をカウントするため、付録でページ数を稼ぐことは無意味である。付録は必要最低限に抑え、紙資源を大切にすべきである。

### 2.3.1 本文

序論、本論、結論の三部構成となる。本論は論文解説展開に応じて章、節、項と分ける。なお、「序論」と表題を付けた場合には「結論」、「まえがき」と表題を付けた場合には「むすび」、「はじめに」と表題を付けた場合には「おわりに」と対応させる必要がある。

本来研究はページ数で評価すべきではないと思うが、学位論文は論文記述の訓練を兼ねているためページ数は重要視される。本体裁を用いた場合に、本文は単独研究で 20 ページ、1 名共同研究者が増えるごとに 10 ページの増加程度が最低ラインと思われる。

## 2.4 参考文献

参考文献の書き方は非常に難しい。所属する主要学会の記述方法にのっとるのが適切と思われるが、本体裁を用いてもよい。なお、参考文献の並びについては「参考文献の引用順」とするか「参考文献内での五十音順」とする。こちらも学会によって異なる。

## 第3章 むすび

本稿では学位論文執筆にあたっての心得から注意点までを説明した。諸君は最低限この体裁に従って学位論文を記述する必要がある。体裁を守って提出を行うことで、ようやく論文の内容について審査されるのである。

提出する前に必ず自分で見直しを行い、さらに友人や先輩に見てもらった後で指導教員に提出すべきである。学位論文は指導教員に対して説明するものではなく、広く一般的にその分野の人間に対して説明するものである。後輩が研究の続きを行えるようにするものでもある。

## 参考文献

- 1) 神奈川工科大学 情報メディア学科:卒業研究論文執筆要領 (2007)
- 2) 著者リスト:論文タイトル, 書籍タイトル, ページ, Vol., No., 年
- 3) 著者リスト:書籍タイトル, 年
- 4) Web サイトタイトル:URL